

病害虫発生予察 10月月報

(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和6年10月の気象表(長野地方気象台発表)

官署等		平均気温 °C			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長野	本年	19.1	18.2	15.3	62.0	11.5	47.5	38.3	59.2	44.2
	平年	16.9	14.5	12.2	35.8	32.8	31.8	46.8	50.4	55.0
松本	本年	18.7	17.5	14.5	64.0	9.0	61.0	36.6	55.1	37.4
	平年	16.3	14.0	11.5	47.9	38.9	41.5	47.3	52.7	60.9
諏訪	本年	18.4	16.6	14.1	83.0	12.0	51.5	34.7	63.0	37.6
	平年	15.7	13.6	11.3	54.7	41.0	41.1	49.1	53.0	60.8
軽井沢	本年	15.0	14.0	10.9	68.5	4.0	64.5	31.7	56.0	41.5
	平年	12.7	10.6	8.5	56.4	49.7	45.0	40.7	45.2	54.4
飯田	本年	20.0	18.0	15.7	132.0	7.0	59.5	35.0	56.3	34.5
	平年	17.4	15.1	12.6	66.7	50.0	46.6	47.7	50.5	55.8

前線や湿った空気の影響で、曇りや雨の日が多くなったが、中旬頃は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。

特に、暖かい空気に覆われたため平均気温がかなり高くなり、月平均気温の最高値が統計期間10年未満の観測所を除く全地点(29地点)で、10月としては1位の値を更新した。

1 水稲

(1) 病害虫の発生状況

①カメムシ類(斑点米)

地区予察ほ9地点の斑点米の発生率は、安曇野市、大町市、飯山市では平年と比べ高く、佐久市、上田市、飯田市、長野市は平年並、諏訪市、伊那市の予察ほ場は平年と比べ低かった。

地区予察ほ9地点の斑点米の発生率の平均値は、平年と比べ高かった。

地区予察ほ9地点の斑点米以外の着色粒の発生率は、平年と比べ平年並～やや高かった(第1表)。

第1表 地区予察ほにおける斑点米と着色粒の発生率(%)

調査地点	品 種	斑点米		着色粒(斑点米を除く)	
		平年	本年	平年	本年
佐久市	コシヒカリ	0.028	0.025	0.074	0.090
上田市	コシヒカリ	0.061	0.055	0.159	0.195
諏訪市	ひとめぼれ	0.053	0.020	0.062	0.055
伊那市	コシヒカリ	0.180	0.036	0.193	0.180
飯田市	天童乙女	0.290	0.240	0.363	0.340
安曇野市	コシヒカリ	0.080	0.335	0.113	0.145
大町市	コシヒカリ	0.095	0.150	0.086	0.095
長野市	風さやか	0.038	0.030	0.115	0.155
飯山市	コシヒカリ	0.033	0.095	0.112	0.170
平均		0.095	0.146	0.141	0.158

(注) 1ほ場につき玄米20,000粒調査(2018年以前は30,000粒調査)

着色粒(斑点米を除く)はカメムシ類の吸害により生じた斑点米以外で玄米に着色が認められたもの

平年は2014~2023年の平均値

②黄萎病(罹病再生イネ)

再生イネの調査では、地区予察ほと巡回調査ほを含む計70地点(計210ほ場)を対象として実施した結果、中信地域1地点で発生がみられたが、他の地点ではみられなかった。中信地域の発生地点率及び平均罹病株率は、平年と比べやや低かった(第2表)。

また、過去に発生があった中信地域及び北信地域の計15地点(計45ほ場)を対象とした調査では、中信地域4地点、北信地域2地点で発生がみられた。発生地点率は、中信地域は平年と比べ高く、北信地域はほぼ平年並であった。罹病株率は、中信地域は平年と比べ低く、北信地域はやや低かった(第3表)。

第2表 巡回調査地点における黄萎病（罹病再生イネ）の発生状況

地域	調査地点数	発生地点数	発生地点率(%)		平均発病株率(%)	
			平年	本年	平年	本年
東信	15	0	0.7	0	0	0
南信	18	0	1.1	0	0.01	0
中信	20	1	6.2	4.8	0.04	0.01
北信	17	0	0	0	0	0
全県	70	1	2.1	1.4	0.01	0

(注) 各調査地点で1ほ場100株×3ほ場計300株調査
平均発病株率は調査地点別の発病株率を地域ごとに平均したもの
平年は2014～2023年の平均値

第3表 過去に発生歴のある地点（巡回調査地点以外）における黄萎病（罹病再生イネ）の発生状況

地域	調査地点数	発生地点数	発生地点率(%)		平均発病株率(%)	
			平年	本年	平年	本年
中信	6	4	36.7	66.7	1.99	0.22
北信	9	2	25.0	22.2	0.46	0.33

(注) 各調査地点で1ほ場100株×3ほ場計300株調査
平均発病株率は調査地点別の発病株率を地域ごとに平均したもの
平年は2014～2023年の平均値

2 りんご

(1) 生育概況

11月1日までの須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、シナノスイート、ふじは平年並～やや大きい傾向であった（第1表）。

第1表 りんごの果実肥大状況 須坂市（果樹試験場）

調査日	シナノスイート								ふじ							
	横径(mm,%)				縦径(mm,%)				横径(mm,%)				縦径(mm,%)			
	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比
10/1	92.0	94.8	91.7	100	80.6	86.5	85.3	106	88.1	84.8	87.8	100	75.1	76.7	77.4	103
10/15	94.8	96.9	94.8	100	82.6	87.5	88.4	107	89.9	86.5	89.1	99	76.8	76.8	79.6	104
11/1	-	-	-	-	-	-	-	-	91.4	87.3	91.3	100	78.4	78.0	81.7	104

(注) 平年は2008年～2023年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

① 褐斑病

巡回調査では、東信地域、北信地域で果実に発生がみられ、発生量は平年並であった。

② 斑点落葉病

巡回調査では、果実に発生はみられなかった。

③ 輪紋病

巡回調査では、各地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

④ 炭疽病

巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並～やや多かった。

⑤ すず点病・すず斑病

巡回調査では、北信地域の一部のほ場で発生がみられ、発生量は平年と比べやや少なかった。

⑥ キンモンホソガ

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、10月第1半旬～第2半旬は平年と比べやや少なく、第3半旬以降は平年並であった（第2表）。

第2表 キンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	10月					
	1	2	3	4	5	6
半年	177.2	58.9	25.7	5.7	3.4	0.8
前年	68	39	18	4	1	3
本年	34	3	17	15	13	0

（注）平年は2014年から2023年までの平均値

⑦シンクイムシ類

須坂市（果樹試験場）のモモシンクイガのフェロモントラップには、誘殺はなかった（第3表）。

須坂市（果樹試験場）のスモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、10月第1半旬は平年と比べやや多く、第2半旬以降は平年並であった（第4表）。

第3表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	10月					
	1	2	3	4	5	6
半年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

（注）平年は2014年から2023年までの平均値

第4表 スモモヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	10月					
	1	2	3	4	5	6
半年	1.2	0.9	0.4	0.2	0.0	0.0
前年	8	7	1	2	0	0
本年	36	5	2	2	0	0

（注）平年は2014年から2023年までの平均値

⑧リンゴコカクモンハマキ

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップには、誘殺はなかった（第5表）。

第5表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	10月					
	1	2	3	4	5	6
半年	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
前年	0	0	0	0	0	0
本年	0	0	0	0	0	0

（注）平年は2014年から2023年までの平均値

3 かき

(1) 生育概況

11月1日までの高森町（南信農業試験場）の果実肥大は、平年並～やや大きい傾向であった（第1表）。

第1表 かきの果実肥大状況

高森町（南信農業試験場）

品種名	区分	10月1日 (mm,%)		10月15日 (mm,%)		11月1日 (mm,%)	
		横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径
市田柿	平年	58.1	55.8	61.9	59.4	63.5	60.8
	前年	58.5	59.0	61.6	61.5	64.3	64.0
	本年 (平年比)	56.8 (98)	57.2 (102)	61.3 (99)	60.6 (102)	62.9 (99)	63.1 (104)

（注）平年は2001年から2020年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、南信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②円星落葉病

巡回調査では、南信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

4 野菜・花き

(1) 病害虫の発生状況

① トマトの病害虫

巡回調査では、病害においては北信地域の施設栽培でうどんこ病、すすかび病の発生がみられた。

虫害においては、東信地域の露地栽培でハモグリバエ類の寄生、オオタバコガによる果実被害、南信地域の施設栽培でオンシツコナジラミの寄生、北信地域の施設栽培でオンシツコナジラミ、ハモグリバエ類の寄生がみられた。

② きゅうりの病害虫

巡回調査では、病害においては中信地域の施設栽培でうどんこ病、北信地域の施設栽培でうどんこ病、べと病、褐斑病の発生がみられた。

虫害においては、中信地域の施設栽培でアザミウマ類、オンシツコナジラミ、北信地域の施設栽培でオンシツコナジラミ、ハモグリバエ類の寄生がみられた。

③ キャベツの病害虫

巡回調査では、病害においては東信地域の一部のほ場で黒腐病、中信地域の一部のほ場で軟腐病、北信地域で株腐病、黒腐病の発生がみられた。

虫害においては、ほぼ全域で、ウワバ類などチョウ目害虫の被害がみられた。

④ ブロッコリーの病害虫

巡回調査では、病害においては東信地域の一部のほ場でべと病、黒腐病の発生がみられた。

虫害においては、東信地域の一部のほ場、及び南信地域で、コナガ、ウワバ類などチョウ目害虫の被害がみられた。

⑤ はくさいの病害虫

巡回調査では、病害においては東信地域の一部のほ場でピシウム腐敗病、白さび病、白斑病、中信地域の一部のほ場で軟腐病の発生がみられた。

虫害においては、東信地域でチョウ目害虫の被害がみられた。また、中信地域ではオオタバコガの食入被害がみられた。

⑥ レタスの病害虫

巡回調査では、病害においては、ほぼ全域で斑点細菌病、東信地域の一部のほ場ですす枯病の発生がみられた。

虫害においては、中信地域の一部のほ場で、オオタバコガの食入被害がみられた。

⑦ セルリーの病害虫

巡回調査では、病害虫の発生はみられなかった。

⑧ アスパラガスの病害虫

巡回調査では、病害においては全ほ場で茎枯病の発生がみられ、特に露地栽培で発病株率が高かった。また、中信地域、北信地域の一部のほ場で斑点病の発生がみられた。

虫害においては、東信地域でアザミウマ類、南信地域でアザミウマ類、一部のは場でハダニ類、中信地域でアザミウマ類、オオタバコガ、北信地域でハスモンヨトウ、オオタバコガ、一部のは場でアザミウマ類、ハダニ類の寄生がみられた。

⑨ コナガ (アブラナ科野菜)

フェロモントラップ調査による誘殺頭数は、塩尻市宗賀(野菜花き試験場)では、第1半旬の誘殺頭数は平年と比べ多かったが、第2半旬以降は平年と比べ少なかった。

小諸市(野菜花き試験場佐久支場)、上田市菅平(地区発生予察ほ)、朝日村(地区発生予察ほ)では、ほぼ平年並であった。

原村(防除適期決定ほ)では、平年と比べ多かった。

長野市上ヶ屋(地区発生予察ほ)では、第2半旬に急激に減少し、第2、第3半旬は平年と比べやや少なかった(第1表)。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

設置場所	品目	区分	10月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	3.7	2.2	3.9	4.5	4.1	3.3
		本年	19	3	1	0	0	1
小諸市山浦 (同 佐久支場)	レタス	平年	6.2	5.9	7.3	7.0	7.8	7.1
		本年	3	5	3	10	5	10
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	1.6	1.0	0.6	0.3	0.0	0.0
		本年	2	0	2	0	0	0
諏訪郡原村 (防除適期決定ほ)	ブロッコリー	平年	25.2	9.7	7.9	18.4	7.2	6.0
		本年	60	29	49	62	68	23
東筑摩郡朝日村 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	2.7	3.3	4.7	2.2	3.3	0.6
		本年	6	3	3	3	4	0
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	16.1	15.4	13.1	8.3	4.4	3.2
		本年	15	8	8	5	4	5

(注) 平年は2014年から2023年までの平均値

朝日村は2019年から2023年までの平均値

⑩オオタバコガ

フェロモントラップ調査による誘殺頭数は、塩尻市（野菜花き試験場）、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）、須坂市（農業試験場）のいずれの地点で、平年のような発生終期の減少はみられず、第6半旬まで誘殺頭数は平年と比べ多かった（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	10月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	64.2	47.4	45.7	24.0	10.7	7.9
		本年	76	48	63	69	52	37
小諸市山浦 (同 佐久支場)	レタス	平年	59.4	47.4	52.9	35.5	21.5	7.9
		本年	51	81	90	74	97	64
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	53.2	35.9	23.8	23.4	18.5	15.9
		本年	56	63	71	60	97	67

(注) 平年は2014年から2023年までの平均値

⑪ヨトウガ

フェロモントラップ調査による誘殺頭数は、塩尻市（野菜花き試験場）では、誘殺頭数が減少し、ほぼ平年並であった。
須坂市（農業試験場）では、第4半旬までは平年並であったが、第5半旬以降は平年と比べ多かった（第3表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	10月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	5.5	3.1	1.5	0.9	0.2	0.0
		本年	3	6	1	2	1	2
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	1.0	0.2	0.2	0.3	1.5	0.9
		本年	1	0	0	0	8	10

(注) 平年は2014年から2023年までの平均値

⑫ハスモンヨトウ

フェロモントラップ調査による誘殺頭数は、塩尻市（野菜花き試験場）、須坂市（農業試験場）、上田市（地区発生予察ほ）のいずれの地点で、平年と比べかなり多かった（第4表）。

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	10月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	64.2	56.9	52.1	27.1	18.1	14.8
		本年	63	75	72	63	101	71
須坂市小河原 (農業試験場)	サツマイモ ・だいず	平年	82.8	172.5	246.4	110.1	151.2	165.5
		本年	560	1014	1658	552	1018	1155
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	2.0	1.1	1.1	0.6	0.0	0.0
		本年	50	18	26	53	95	66

(注) 平年は2014年から2023年までの平均値

⑬シロイチモジヨトウ

フェロモントラップ調査による誘殺頭数は、塩尻市（野菜花き試験場）では、平年と比べかなり多かった。
長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）では、第1半旬に2頭誘殺されたが、以降は誘殺されなかった（第5表）。

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	10月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	12.7	12.4	9.6	9.0	6.2	3.4
		本年	60	35	64	63	32	22
長野市上ヶ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	-	-	-	-	-	-
		本年	2	0	0	0	0	0

(注) 平年は2014年から2023年までの平均値

⑭アザミウマ類

青色粘着トラップ調査による誘殺頭数は、上田市菅平（地区発生予察ほ）、富士見町（防除適期決定ほ）、塩尻洗馬（地区発生予察ほ）、長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）のいずれの地点で、平年と比べかなり多かった（第6表）。

第6表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	10月					
			半旬	1	2	3	4	5
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	1.3	2.0	1.3	0.0	0.0	0.0
		本年	10	6	8	11	8	9
諏訪郡富士見町 (地区発生予察ほ)	きく	平年	-	-	-	-	-	-
		本年	18	13	9	8	2	2
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	12.7	7.2	4.8	2.3	4.7	1.8
		本年	26	14	9	14	9	9
長野市上ケ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	23.0	13.5	4.0	3.3	0.0	0.3
		本年	43	30	47	48	22	13

(注) 平年は塩尻市では2017年から2023年までの平均値
 上田市は2021年から2023年までの平均値
 長野市は2018年から2023年までの平均値

⑮アブラムシ類

黄色粘着トラップ調査による誘殺頭数は、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）では、第2、第3半旬は平年並であったが第4半旬平年と比べやや多かった。

小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）、上田市菅平（地区発生予察ほ）、長野市上ケ屋（地区発生予察ほ）では、第3半旬までほぼ平年並であったが、第4半旬以降、平年と比べ多かった。

富士見町（地区発生予察ほ）では、平年と比べかなり多く9月と同程度の誘殺頭数であった。

塩尻市洗馬（地区発生予察ほ）では、ほぼ平年並の誘殺頭数であった（第7表）。

第7表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	10月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 (野菜花き試験場)	キャベツ・ はくさい	平年	3.1	1.7	2.9	1.7	1.7	1.3
		本年	10	2	3	6	7	7
小諸市山浦 (同 佐久支場)	レタス	平年	2.6	3.1	3.3	2.7	3.1	3.6
		本年	1	2	2	11	15	11
上田市菅平 (地区発生予察ほ)	はくさい	平年	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	0.5
		本年	1	2	4	7	19	14
諏訪郡富士見町 (地区発生予察ほ)	きく	平年	-	-	-	-	-	-
		本年	87	93	52	35	54	30
塩尻市洗馬 (地区発生予察ほ)	レタス	平年	1.8	1.5	6.8	4.3	7.8	5.2
		本年	7	4	1	3	7	11
長野市上ケ屋 (地区発生予察ほ)	キャベツ	平年	2.0	0.5	0.5	0.3	0.0	0.0
		本年	2	0	4	8	10	8

(注) 平年は塩尻市宗賀・小諸市では2017年から2023年までの平均値
 上田市は2021年から2023年までの平均値
 塩尻市洗馬・長野市は2018年から2023年までの平均値